

NPO法人



2018年9月10日

第 39 号

Jomon Shiba



特定非営利活動法人

縄文柴犬研究センター

もくじ	1
1993年のレポート 狩猟犬としての縄文柴犬ークマ猟ー (2) ☆五味靖嘉	2
土井下さんからミニ交流会報告 ☆石川県 土井下千明	6
シバの散歩道 (38) ☆根深 誠 (文筆家・釣り師・元登山家)	8
お便りコーナー 「縄文柴犬を飼育して1ヶ月の感想と現況」 ☆秋田県 高橋 努	12
☆新潟県 井上 覚	14
☆広島県 岡村千鶴	15
「カイ君が我が家にやってきて一年になります」 ☆富山県 杉山春美	16
☆京都府 長井一詩	17
特別企画 2018年度 新理事を引き受けていただいた方を紹介します。	
☆広島県 柳楽 倫	18
「血統書の発行を引き受けて」 ☆広島県 向井亮太	20
「今回の西日本豪雨災害について」 ☆広島県 向井亮太	20
「柳楽さんの質問についてー私の考え」 ☆五味靖嘉	22
アンケート調査の感想について ☆サン獣医科 獣医師 高橋正志 (秋田県)	22
事務所報告 ☆会費☆寄附金☆新入会☆保存協力金☆寄贈	23
☆広島研究所開設のお知らせ・名称：NPO 法人縄文柴犬研究センター「広島研究所」	23
☆アンケートについて	23
お知らせ 諸料金一覧 血統登録について	19

次号、会誌40号の原稿締め切りは、10月15日となります。皆様の投稿をお寄せください。

・会費や寄附などをお寄せいただいた方の氏名・県名を掲載させていただきますが、匿名を希望される場合は、お知らせください。

特定非営利活動法人 縄文柴犬研究センター

郵便振替口座 : 02280-2-106951

会事務所 : 〒 014-0073 秋田県大仙市内小友字堂ノ前 119 番地 5 ☎ 0187-68-2976

<http://www.jomon-shiba.com/>

encounter_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp

土井下さんからミニ交流会報告

石川県 土井下 千明

計画

皆様、随分と汗ばむ時季になりました。金沢はまだ梅雨入り宣言はありませんが、もうすぐ梅雨に入りそうな感じがします！そんな中、モンちゃんも元気一杯に成長をして、随分大人っぽくなりました！今後は、交配の事も考えて、大事に育てていきたいと思っています。

そして今度の日曜日に、黒梅さんがお忙しい中、人力を尽くしてくださり、北陸方面、縄文柴犬交流会を予定しております。お堅い感じで言いましたが、黒梅さんのキューちゃん和我が家のモンちゃんを連れて北陸に居る縄文柴犬と、その飼い主さんに会いに行こう！と、言う

内容の事です。

これは、去年、黒梅さんに連れて行ってもらった交流会の道中に、そんな話になり、今回実現する事になりました！これも、全て黒梅さんのおかげなので、感謝です(*^▽^*)

どんな縄文柴犬に会えるのか？また、みなさんどんな風に飼ってらっしゃるのか？どんな環境に居るのか？などなど、今から楽しみです！犬をこよなく愛している者同士、楽しんで行きたいと思います！

また、この時の様子はこちらで報告したいと思っています！ありがとうございます。(2018.6.8)

ミニ交流会 6 月 10 日実施

とうとう北陸も梅雨入り宣言されましたが、昨日の日曜日はお天気も崩れずに良い気候に恵まれ、黒梅さんとキューちゃん、そして私とモンちゃん(自称)縄文柴犬交流会に出かけました！

今回は時間の都合で、医王山の近松さん宅カリー君と、富山県にお住まいの杉山さん宅カイ君の二軒のお宅に伺いました。

とってもいいところで感激！ まだまだ検討中ですが、猪駆除？のモンちゃんの体験などをお話ししたら、とても興味深く聞いてくれました！近松さんは、農業の傍ら食堂もされているとの事で黒梅さんと楽しみにしていましたが、今は田植えの時期で忙しい為に、食堂はお休みでした。(残念…！だから私が頑張ってお弁

カリー君です！とっても元気一杯な男の子でした。

カリー：葵の青星-洛南深草 2017.5.28 生 (長月の紅丸×秋の珠紅子)



キューちゃんが隠れてますが…3匹でパシャ！

当を作って持っていきました！)

次回は食堂をやってる時期に来る約束を取り付けて、次の目的地に向かいます。

この子は杉山さんのカイ君です！とても可愛いがられている事がすぐわかりました！

カイ：剣菊次郎ーくりこま・2017.2.9 生（剣の紅太郎×白菊姫）



砺波、散居村の屋敷林の事をカイニョ（本誌 17 ページ参照）といい、その名前をとってカイニョ君、通称カイ君と命名されているそうです！カイ君の住んでいる散居村。素晴らしい庭園のお宅でしたが…その素晴らしい庭園は、写すのを忘れてしまいました。

杉山さんは、とてもバイタリティのあるお方で、農業高校に入学されて今年卒業されたそうです。カイ君は

杉山さんが作っているお野菜を一杯食べて育てているそうです。

昨年の交流会の時も感じましたが、縄文柴犬を飼われている方は、凄い方ばかりだなあ〜って思いました！

最後に、仕方なく付き合ってくれた(?)キューちゃん とモンちゃんの写真でくりたいと思います。

左=キュー：飯山駒房ー飯山 2011.7.7 生
(藤の黒駒×新田の夏女)

右=モン：剣春駒姫ーくりこま・2017.2.14 生
(剣の紅太郎×栗駒の春姫)



黒梅さんと思い付いて始めた交流会でしたが、今回、伺ってホントに良かったと思いました。中々忙しかったり、家庭の事情の為に会の交流会に参加する事は難しいので、こんな風に黒梅さんと回る事で、悩みがあれば一緒に考えたり、どんな風に飼育されているのかもわかりますから、とても勉強になりました。

そして何より…、楽しかったのが一番です(*^▽^*)

次回は、今回行けなかった富山市の良子さん宅にお邪魔する予定です。(いつになるかは、まだ予定は決められてません！)

少し長くなりますが、今回の交流会の報告とさせていただきます。そして最後に黒梅さんホントにありがとうございました。(2018.6.12)

シバの散歩道 (38)

根深 誠 (文筆家・釣り師・元登山家)

道ばたの土手や畑地の雪が消えて草花が咲き出すころは、空の色もそれまでとはすっかり異なり、青く輝き深みを帯びてくる。ハクチョウも北へ飛び去ったようだ。日一日と暖かくなり、残雪を戴く岩木山が青空にくっきりとスカイラインを描き出す。そうになると陽気に誘われ、普段より遠くへ足を延ばしてみようという気にもなる。

とくに天気の良い日を見計らって土淵川の遊歩道を上流へ向い、住宅地の南端にある危険なゴルフ場と、それにつづく弘前高校の野球場を見ながら田園地帯を歩いた。土淵川沿いに延びる遊歩道は久渡寺までつづいている。芽吹きはじめた草木の生气躍動感が私の内面に浸透してくるようだ。

いっばしの歌人を気どり、ここで一首詠みたいものだと思うが、如何せん、その技量を持ち合わせないのだからどうにもならない。このあたりの自然との交感を詠い込むことができれば、胸のつかえがとれたように精神的にもすっきりして、健康の豊かさが保たれるのかもしれない。それができないので悶々と、うーん、と唸って、青空を仰ぎ見ながら深呼吸を繰り返すのが関の山である。

思いっきり空気を吸い込み、頭を下げながら吐き出すと、路面に伸びているアオダイショウが目につきギョッとした。へびは苦手だ。好奇心が旺盛なやんちゃ

犬のシバがいなかったのが幸いした。きっとじゃれて噛みついたりしかねない。

アオダイショウは両手をいっぱいに広げたほどの長さはある。リンゴ畑から、三面護岸を施されて用水路化した土淵川を渡って散歩道の路面に出てきたのだろう。

ながながと青大将が寝そべり

春の路面の甲羅干しかな

後日、シバといっしょのときだったが、アオダイショウと思われるへびの抜け殻が道わきにあった。私より先に見つけたシバが何だろうと不審に思ったのか、近づいたので私はあわててリードを引く。

へびの皮を金運アップの縁起物として飾ったり、財布に入れたりする信心深い人もいて、以前、釣りに行ったとき拾って来て友人にあげたことがあった。友人



← 散歩コースの路面で寝そべるアオダイショウ

↑ アオダイショウと思われるへびの抜け殻

はそれをスナックで知り合った若い独身女性にプレゼントしたそうである。その後、ふたりの関係がどのようなものになったのか、聞きもしなかったが、アパートを訪問するようになったと話していた。金運アップを餌に独身女性を釣ったのだろうか。

ヘビは溪流釣りに行くと目にする事が多い。先般も、ヤマメ釣りで川沿いの土手道を歩いていて出くわした。逃げ出すわけでもなく堂々とその場にのさばっている。竿で追い払おうと考えたが、それより引き返したほうが面倒がない。私は引き返し、橋を渡って対岸の土手道を上流へ向った。

※ ※ ※

散歩コースの周辺に広がるリンゴ畑では、そこが山際であるだけに当然ながらヘビ以外のさまざまな野生鳥獣が姿を見せる。散歩コースの傍のリンゴ畑で作業員として働いている古い釣り仲間の話では、キツネが出てきたり、クマがリンゴを食い荒らしたりしている。

摘果作業に追われる六月も半ばだった。親仔グマが罠にかかった。最初、母グマがかかり、その数日後、仔グマがべつの罠にかかった。罠はドラム缶を改良したものでリンゴを数個入れておく。クマが中に入ると入口にある鉄製の柵が降りて塞がるような仕組みになっている。友人は罠にかかった母グマの写真を送っ



リンゴ畑で罠にかかったクマ。友人が送ってくれた

満開のハリエンジュ(外来種)。ニセアカシヤともいう



てくれた。

罠にかかったクマは奥山に放されるのかと思っていれば、そうではなく射殺し、食用するのだとか。樹に上ってリンゴを食べたり枝を折ったりするので害獣として扱われている。友人の話を聞いていて、親仔グマが人に食われてしまったのかと思うと、顰蹙を買いかもしれないが、クマが気の毒に思われた。

山際の農村では、クマやサルなどの野生鳥獣と人の生存をめぐる争いが日夜繰り広げられている。人は野生鳥獣を射殺することで決着をつけているようだ。

友人が言うには、クマの出没は日常茶飯事で、リンゴ畑の至るところに糞が散らばっている。作業員が踏みつけたりするので、それとわかるように新聞紙をかぶせておくのだという。

昔、私がまだ若くて山歩きが達者だったころ、白神山地では「シラ」と呼ばれる罠が山中に仕掛けられてあり、クマやカモシカがかかった。この罠猟は違法である。

ある年の秋、罠とは知らずに、雨宿りのつもりで入ったキノコ採りがかかって死んだ。誰が仕掛けた罠なのか、村びとは知っていたが、誰もが固く口を閉ざした。

山で射獲されたクマの肉を私はたびたび賞味したことがある。クマ肉は一般的には歯切れが悪くまずい、と言われているがそうではない。まずいのは料理の仕方が適切でないからだ。日本酒やワインを混ぜて肉を

柔らかくすれば滋味を愉しめる。

リンゴ畑で罨にかかったクマについて言えば、珍重される肝はこの時期、ほとんどないに等しいのでカネにはならないだろうし、毛皮がどのように処分されたのか気になった。なめし皮にしたのかどうか。というのは以前、クマ撃ち猟師の知人から大グマの生皮を頂戴したことがあったからだ。

クマの毛皮を敷物にすれば心身ともに活力がみなぎってくると、ことの真偽はともかくそのように言われている。知人から頂戴した生皮は敷物にしようと思っていたのだが、東京在住で編集者の知人が是非とも欲しいというので、なめし代と送料分の料金で譲ってあげた。

尻当て用のちいさな毛皮なら椅子に敷いていまも使っている。

※ ※ ※

散歩コースにかぎらず、近年とみにリンゴ畑が伐採されているのに気づかされる。後継者がいなくなり、そのまま放置しておくで害虫が繁殖し、近隣のリンゴ農家に迷惑をかける、というのが概ね伐採の理由になっている。

散歩コースで見かけた、伐採中の老人に話しかけると、昨年、持ち主が亡くなり、家族に依頼されて伐っているのだとか。何十年にも亘って手塩にかけたリンゴ畑は掛け替えのない財産である。

「もったいないけど、どうもなんねえべ。農業を継ぐ人がいないんだもの。仕方ねえべ。ここの家だけでなく、どこでもそうだよ。このままではリンゴ農家はなくなってしまうよ。リンゴ畑が減っていくんだもの、そんだベサ」

買いとったり借りたりなどして経営する人もいるにはいるが、多くはない。

「農業が衰退するわけですね」

「まあナ。それもまた時代の流れだベサ」

私の年下の友人なのだが、定年後、リンゴ畑を借りて農業経営をはじめている。それまで実家が農家で手伝っていたこともあり多少はノウハウを知っていた。勤務先の会社は東京なので、金曜日の夜行バスで帰省し、土曜日、日曜日に農作業をして夜行バスで帰京、月曜日には入社する。五年間それを繰り返した。

その友人のリンゴ畑は山間部ではなく平野部の田園地帯にある。クマやサル被害に悩まされることがなかった。友人が借り受けた農地はリンゴ畑が 5 反部、アスパラ畑が 3 反部。ひとりで耕作する広さとしては

限界だそうだ。

友人は東京農大山岳部の出身で海外の山にもずいぶん登った猛者である。その彼にして限界だと言うのだから常人の及ぶところではないのかもしれない。その働きぶりは小さなムラ社会の噂になっている。村人が物陰に隠れて、

←リンゴの樹を伐採中の老人



早朝五時から働きに出る彼を覗き見していることもあるという。

「あれはいつ寝てるんだベナ。夜暗くなっても働いてるよ。体、よく持つもんだナ。まるでバケモノだナ」

当人に言わせると気にも留めていない。

「会社勤めと異なり、とやかく指図されることもないし、社長みたいなもんだ。冬は休養できるし、働けるときは思いっきり働かなきゃ」

友人は山岳部の先輩が経営する小さな商社に勤めていたのだった。ふるさとに戻って認定農家として農業経営に乗り出し、二年が経つ。いずれ、リンゴ畑をさらに借りて拡大し、会社組織にしたいと抱負を語っている。

※ ※ ※

狭苦しいわが家の小さな庭のテラスに、シバの食事時にはご飯粒をばら撒いておくのだが、その時刻になるとスズメの群れがブナの枝にとまって待ち構えている。ばら撒かれたご飯粒に群がり、音色さまざまに鳴き声はにぎやかである。

子雀がはげしく鳴きたて親を呼び

羽ふるわせて餌ねだる朝

ときにはカラスもキジバトもヒヨドリも来たりする。以前はキジも姿を見せていたのだが、ねぐらにしていた庭木のゴヨウマツが春先、雪の重みで倒れてからは現れなくなった。倒れたゴヨウマツは細かく伐り刻んでゴミに出した。

この稿を書いているいま現在、シバの夕食時なのだが、梅雨時の雨降りの中、ヒヨドリの親仔づれがカラマツに飛んできて、子どもが餌を要求しているのか、かん高い声をさかんに張り上げている。そこへスズメが集団で現れた。ばら撒かれたご飯粒に狙いをつけて来たのだろう。

ちなみにシバのこの日の夕食は、私が昼食にソバを食べたので、その出汁をとった煮干しと昆布、それに

わが家のテラスに現れた野良猫



白菜とカナダ産の豚肉、ご飯である。まずまずの栄養価ではないだろうか。一時、市販のドッグフードを与えたこともあるのだが、嫌いなのか、口にしない。

シバは老化と夏バテなのか、暑くなると食べ残すことがあった。それを狙って来るのがカラスだ。近ごろはネコも現れるようになった。

筋向いの家で餌づけしている野良猫は、シバが吠え立てるのでわが家の前を歩くことはしなかった。姿を見せないように他所の家の裏を歩いている。

わが家の庭に現れるのは新顔のネコだ。隣家のその隣の家が空き家になっていて、そこに棲みついているようなのだ。教師をしていた主人が定年後亡くなり、北海道出身の夫人が、家をそのままにして郷里に戻って帰って来ない。はや数年になる。

そこへ野良猫が棲みついたというわけなのだ。人懐こいところがあり、私と初対面するとき、すぐには逃げようとしなかった。テラスで鳴き声を出しながら、ばら撒かれたご飯粒を食べていた。べつに追い払う必要もない。

しかし、心配なのはスズメを捕らえて食べはしないかということだ。

